

幼児教育・保育の環境における質的向上への取組み ～ロングセラー絵本に関する読書経験調査と園文庫設置の提言～

浅 木 尚 実

（2014年10月15日受理）

要 約

21世紀に入りOECDの提言により、幼児教育・保育の質について国際的に注目を浴びることとなった。生涯の基盤を作る幼児期の教育・保育の質は「構造の質」に議論が集中しているが、「過程（プロセス）の質」については各国の文化の違いもあり、尺度を定め実行に移すことが困難な現状である。本論では教育・保育における質的向上の「過程の質」に関する具体的な課題として、園文庫の導入を提言する。調査段階として、学生及び現場教諭と保育士の絵本の読書環境に焦点を絞り、2013年に関東近郊の四年制及び短期大学の養成校の学生及び現場の保育・幼児教育関係者を対象に、「ロングセラー絵本の読書に関する質問紙調査」を行った。その結果を踏まえ、幼児教育の環境における質的向上のひとつの取り組みとしての園文庫設置の必要性を問うた。

キーワード 幼児教育・保育の質的向上、過程の質、環境構成、絵本、読書経験、園文庫

はじめに

乳幼児期の保育・教育は人生のスタート地点において、生涯学習の基盤となることは国際的な視座で議論され周知されてきた（OECD, 2001, 2006ⁱ）。2012年、ノルウェーで開催された「OECD就学前教育・保育ハイレベル円卓会議ⁱⁱ」には、34カ国が参加し、「幼児教育・保育の質的向上」に関する議題が議論された。また、我が国の幼保一体化の「子ども子育て新システム」の議論について、2014年9月の保育士養成協議会ⁱⁱⁱにおいても改革の最優先課題として報告された。しかし、現段階での「質的向上」に関する議論は、職員の教育、資格、研修、賃金等の「構造の質」^{iv}が主で、保育・教育方法やカリキュラム、物理的環境、素材、教材等の「過程（プロセス）の質」（以下「過程の質」とする）迄の議論には至っていない。これは、制度や統計を主とした情報は可視化しやすいが、「過程の質」については、複雑多岐な要素が絡み合い観察や評価の方法を定めにくい実情があるためと考える。

こうした現状を鑑み、教育・保育内容の質的向上の「過程の質」に関する知見を深めるため

には、国内外の幼児教育・保育現場の現状及び養成校におけるカリキュラムを学びなおすことが求められている。今後日本の文化に見合った方針や基準を国家的な政策としても明らかにし、幼児教育への投資を実行に移すべきであろう。

本論では、「過程の質」を左右する物的環境 ― 身近であると同時に幼児教育・保育に不可欠である絵本環境 ― に焦点をあてて考えていくこととする。

I. 目 的

1. 幼児教育・保育環境の質的向上

乳幼児を育てる過程において、二つの命題がある。ひとつには、他の生物と同様、種の持続であるが、もうひとつは、人間ならではの豊かな人生への援助であろう。ポルトマンの唱えた生理的早産^vは、人間の未熟な状態での誕生は、周囲の大人である親ないしは保護者によって、手厚い庇護のもとに、生命を維持しなければ生存できないことを意味している。この世に生を受けた一人ひとは、充実した人生へのスタートを切り、社会的に自立し、役割を担うことが求められている。このように、生涯にわたる人間形成にとって極めて重要な幼児期における環境は、質的にも保障されたものでなければならない。

前述した2014年のOECD就学前教育・保育ハイレベル円卓会議では、以下の3項目が会議の目的とされた。

- ① 質の高い就学前教育・保育への投資が経済的及び社会的に重要であることに焦点をあて、多くの人の注目を集めること。
- ② 国々において、質の高い就学前教育・保育への投資を強化することができる主要な政策と実行に注目すること。
- ③ 課題への挑戦とその取り組み方法について理解増進のため、就学前教育・保育関係者間で、観点を共有し、対話を発展させること。

ここで繰り返されている「就学前教育・保育への投資」とは、ジェームズ・ヘックマン^{vi}の社会的投資としての幼児教育の研究報告から起因している。ヘックマンは、質の高い幼児教育こそが、就学後の教育の効率性を決め、社会的支援が必要とする恵まれない家庭の子どもたちの生活の質を高めると説明している。「幼児教育・保育の質的向上＝社会的投資」を意味したヘックマンの研究発表^{vii}により、アメリカではこれを踏まえて、オバマ大統領の演説で就学前教育の充実を公約し、その後幼児教育重視の流れが促進された。

日本でも、平成26年度全国保育士養成セミナー・全国保育士養成協議会第53回研究大会において、保育の質的向上」がテーマとなり周知されたことは前述の通りである。秋田喜代美^{viii}は、下記に引用したOECDの「保育白書」^{ix}の調査報告からも、幼児教育の質がその後の人生に大きく影響すると次のように述べている。

「OECDのような国際経済について協議する機関が幼児教育・保育に注目する理由は、幼児教育・保育への公共投資が、経済的・教育的に国の経済成長にとって有効であると

いわれるようになってきたからです。それは、1990年代からアメリカやイギリスを中心に、子どもの発達を追跡するさまざまな調査が行われた結果、幼児期の学びがその後の子どもの発達や人生に大きな影響を及ぼすということがわかってきたのです。」

本論では、これまで述べてきたように「子どもの発達や人生に大きな影響を及ぼす」幼児期の学びを大きく左右する環境^xに焦点をあてている。しかし、環境の質的向上という広範囲の命題の中で、本研究の調査対象を最も幼児に身近な児童文化財の絵本に絞った。調査対象は、養成校に所属する学生と保育所保育士である。両者を対象に、幼児期のロングセラー絵本^{xi}の読書体験を問う同じ質問紙調査を行った。

Ⅱ．学生を対象とした調査と結果

1. 目 的

本研究の絵本質問紙調査を行う意図は、日本の『幼稚園教育要領』や『保育所保育指針』及び『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成26年版〉』の第2章 保育内容、「言葉」のねらいにおいても重要視されている「絵本」が着目されているからである。これらの要領や指針の教育・保育内容「言葉」には、「日常生活に必要な言葉がわかるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、保育士（保育教諭）や友達と心を通わせる」とある^{xii}。

絵本は、子どもの文学すなわち子どもが最初に出会う文学である。原昌は、「子どもの文学」を次のように述べている。「〈文学〉の本質をふまえながら、主として子どものため〈対象〉、子どものもつ（共有）、子どもの選んできた、また選んでいく（選択・継承）文学の広い意味の総称^{xiii}」子どもの文学には、多種多様な人物や動物が擬人化したかたちで描かれ、子どもはその世界に同一化してあたかも自分が体験するかのように入り込んで読むことができる。瀬田貞二は、「行きて帰りし物語」^{xiv}が幼い子が喜ぶ話の基本構造であると述べているが、30年以上出版を重ねているロングセラー絵本の中には、この構造を持っている文学が数多くある。子どものみならず親世代の共感を得てきたロングセラーは、少なからず世代を超えて読み継がれており、子どもの発達に必要な魅力を備えていると考える。児童文学論のリリアン・スミスは、子どもの絵本について次のように述べている。

「子どもはどんな絵本をすくのだろうか。また、このマス・プロダクションの時代に、私たちは、すぐれていて、特色があり、最大限度まで喜びを与えるといった絵本を、どのように見分けたらよいだろうか。絵本は、第一に幼児の感覚に訴えるが、また知性、情緒にも訴えかける。しかし、子どもの興味をひきつけるためには、その絵本のアイデアや感情は、ただおとなの考えや情緒を単純にしたものであってはいけなないので、子どもの心のなかにあるそれらでなければならない。」

「二十世紀の絵本のなかには、幼い子どもたちが、大すきになり ― 何度も何度もくりかえして読み（または、親たちに読んでもらい）あきずに楽しみ満足するようなものが、

いくつもある。そういうものを心して見るならば、ある絵本は、なぜ時代に左右されない特質をもっているかを、私たちは知ることができるだろう。また、なぜこういう絵本にかぎって、幼児が本能的に手をのびし、おとなになってからも、はっきりと愛情をもって思い出すことができるかを、いままでよりも正確に、的をはずさず知ることができるだろう。」

以上のように、絵本研究における草分け的存在である瀬田やスミスが指摘している通り、絵本における選書は幼児教育の中でも重要な作業である。毎年約3,000冊の絵本が出版される日本の出版状況の中で、幼児期にこのような基本図書に出会うための方策が問われることになるが、本論では、30～40年前に出版されているロングセラー絵本が既にこの世に存在していた時代に誕生した学生を対象にその読書経験の調査を行った。

2. 方 法

調査対象者：関東地方近県4年生大学89名及び短期大学131名の計220名の女子学生の協力が得られた調査票を分析対象とした。

調査時期及び手続き：2013年5月から6月

調査内容：1950年代から1970年代に出版されたロングセラー絵本51冊を選び、「読んでいる」「わからない」「読んでいない」の三択の調査票とした。（巻末の絵本リスト参照）51冊は、主に東京子ども図書館の推薦リストとミリオンセラーのパンフレットの中から抽出した。

3. 結 果（表3－1）

51冊のうち、90%以上の学生が「読んでいる」と回答した絵本は以下の3冊であった。『ぐりとぐら』（96%）と『おおきなかぶ』（96%）と『はらぺこあおむし』（92%）であった。（[図1－1参照](#)）

また、50%以上「読んでいる」と回答のあった絵本の内訳は、以下11冊（[表1－1・図1－2](#)）であった。

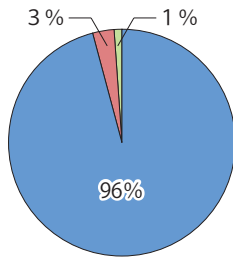
表1－1：50%以上の学生が「読んでいる」と回答した絵本

『ねずみくんのチョッキ』（77%）、『はじめてのおつかい』（69%）、 『ピーターラビットのおはなし』（65%）、『わたしのワンピース』（62%）、 『かいじゅうたちのいるところ』（61%）、『スーホの白い馬』（57%）、 『てぶくろ』（56%）、『かばくん』（55%）、『だるまちゃんとてんぐちゃん』（55%）、 『ぐるんぱのようちえん』（54%）、『からすのパンやさん』（52%）
--

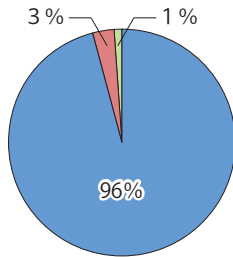
また、「読んでいる」との回答が、50%以下の主な絵本は（[表1－2・図1－3](#)）の通りであった。

この中には、『どろんこハリー』や『ちいさなおうち』のような名作や中川李枝子の『そらのたね』、林明子の『きょうはなんのひ』等の著名な作家による代表作以外の絵本は、

『ぐりとぐら』 中川李枝子 文、大村百合子 絵、福音館書店、1963



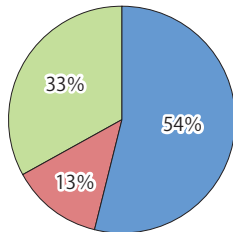
『おおきなかぶ』 A. トルストイ、佐藤忠良 絵、内田莉莎子 再話、福音館書店、1962



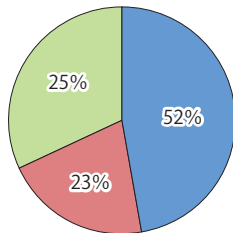
■ 読んでいる ■ わからない ■ 読んでいない

図 1 - 1 : 90%以上の学生が「読んでいる」と回答した絵本

『ぐるんぱのようちえん』 西内みなみ 文、堀内誠一 絵、福音館書店、1970



『からすのパンやさん』 加古里子 作、偕成社、1973



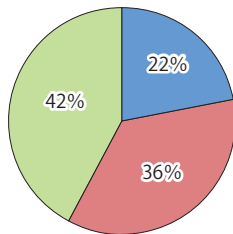
■ 読んでいる ■ わからない ■ 読んでいない

図 1 - 2 : 50%以上の学生が「読んでいる」と回答した絵本

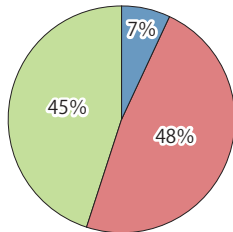
表 1－2：「読んでいる」と回答した学生数が、50%以下の主な絵本

『どろんこハリー』（47%）、『ちいさなうさこちゃん』（34%）、『ぞうのババール』（30%）、『そらいろのたね』（27%）、『おおきなおおきなおいも』（26%）、『ちいさいおうち』（22%）、『きょうはなんのひ？』（19%）、『げんきなマドレーヌ』（16%）、『ひとまねこざる』（16%）、『おやすみなさいフランス』（9%）、『もりのなか』（7%）、『ラチとらいおん』（7%）、『わたしとあそんで』（4%）、『かもさんおとおり』（1%）

『ちいさいおうち』 バージニア・リー・バートン 作、いしいももこ 訳、岩波書店、1965



『もりのなか』 マリー・ホール・エッツ 作、まさきりこ 訳、福音館書店、1963



■ 読んでいる ■ わからない ■ 読んでいない

図 1－3：「読んでいる」と解答した学生数が、50%以下の主な絵本

読まれていないという結果も判明した。

加えて、『ぞうのババール』『ひとまねこざる』『ちいさなうさこちゃん』（ミッフィー）『げんきなマドレーヌ』『ラチとらいおん』等、キャラクター商品として流通していても、原作を読んでいることには結びついていないことも気になる点であった。

6

4. 考 察

20歳前後の女子学生の幼児読書体験とロングセラーに関する調査の結果、90%以上の絵本が3冊のみであったこと、及び幼児教育者として少し前まで常識であったはずの基本図書の51冊中38冊が、50%以下の結果であったことを鑑み、予想以上に学生の幼児期における読書体験が豊かではないことが判明した。（表3－1参照）

次の章では、現職の保育士や幼児教育者の読書体験やどんな絵本を子どもに読み聞かせをしているのかを調査及び結果を報告したい。

Ⅲ．現場保育士の調査と結果

1. 目 的

前章では、学生を対象としたロングセラー絵本についての質問紙調査を行った。ここでは、現場の保育士を対象に学生を対象としたのと同じロングセラー絵本リストを使い、読書体験に関する質問紙調査を行った。その結果を学生の結果と比較、考察することを目的とする。

2. 方 法

調査対象者：関東地方近県保育士206名の協力が得られた調査票を分析対象とした。

調査時期及び手続き：2014年1月から2月

調査内容：1950年代から1970年代に出版されたロングセラー絵本51冊を選び、「読んでいる」「わからない」「読んでいない」の三択の調査票とした。（[巻末の絵本リスト参照](#)）

3. 結 果（表3－2）

51冊のうち、90%以上の保育士が「読んでいる」と回答した絵本は以下の4冊であった。カッコ内は、前回の学生対象の数字。（表2－1・図2－1）

表2－1：90%以上の保育士が「読んでいる」と回答した主な絵本

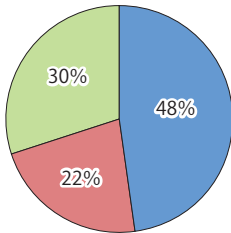
『おおきなかぶ』 98% (96%)、『ぐりとぐら』 94% (96%)、 『はらぺこあおむし』 99% (92%)、『三びきのやぎのがらがらどん』 90% (73%)

現場の保育士のロングセラー絵本に関する調査の結果、90%以上の絵本が4冊のみであった。このことは、実習生への指導の際にも、保育士の読み聞かせの技量や絵本そのものについての知識の増加が求められるであろう。また、表2－2のように、現場保育所の保育士もロングセラー絵本の読書状況が低迷していることが証明された結果となったのは残念である。

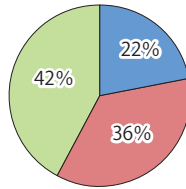
表2－2：現場保育士の絵本体験の内訳

『あおくときいろちゃん』 47% (27%)、『いたずらきかんしゃちゅうちゅう』 30% (7%)、 『からすのパンやさん』 74% (52%)、『きかんしゃやえもん』 40% (6%)、 『くまのビーディーくん』 23% (6%)、『三びきのやぎのがらがらどん』 90% (73%)、 『ぞうのババール』 50% (30%)、『そらいろのたね』 69% (27%)、 『たろうのおでかけ』 38% (7%)、『ちいさいおうち』 48% (22%)、『ティッチ』 15% (9%)、 『てぶくろ』 92% (56%)、『もりのなか』 27% (7%)、『ゆきのひ』 38% (14%)

『ちいさいうち』 パージニア・リー・バートン 作、いしいもこ 訳、岩波書店、1965



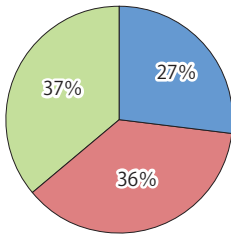
〈現場保育士〉



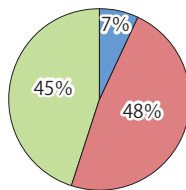
〈学 生〉



『もりのなか』 マリー・ホール・エッツ 作、まさきりこ 訳、福音館書店、1963



〈現場保育士〉



〈学 生〉



■ 読んでいる ■ わからない ■ 読んでいない

図 2-1：現場保育士の絵本体験の内訳

IV. まとめ

二つの調査から、幼児教育・保育の「過程の質」における環境の質的向上の一案として、園文庫の整備の提言を行いたい。「園文庫」とは、園の絵本を所蔵し、家庭に貸し出す仕組みの小さな図書室のことである。日本では、公共の施設図書館より、自宅を開放した家庭文庫が活発になった歴史がある。既に1957年から自宅で文庫を開放していた村岡花子、土屋滋子等とともに、石井桃子は「家庭文庫研究会」を立ち上げた。村岡花子が始めた自宅を開放した家庭文庫の波は、石井桃子、渡辺茂雄、松岡享子、土屋滋子に影響を与え、家庭文庫数は瞬間に普及した。「かつら文庫」が誕生したのは、1958年であるが、公益財団法人東京子ども図書館に経営母体に移し、現在に至るまで活動は引き継がれている。家庭文庫隆盛期に、読書に慣れ親しみ、大人になって活躍している人物も少なくない。『聞く力』をはじめ、多くの著書を書き、インタビューの名手として活躍中の阿川佐和子は、石井桃子主宰の「かつら文庫」の常連であり、歌人の俵万智は、自宅近くの家庭文庫に毎日通い、『三びきのやぎのらがらどん』を母親に幾度となく読んでもらい、すべて暗唱してしまったというエピソードを『リンゴの涙』^{xv}というエッセイ集で紹介している。この頃の家庭文庫の目標は、子どもの身近な場所に優れた絵本を置くことで、本の楽しさを知り、本好きになってほしいと願っていた。後に石井桃子の自宅の一室を開放して開始され、この間の記録を著した『子どもの図書室』^{xvi}は多くの人びとに影響を与えた。石井は子どもの読書の問題を解決するためには、

「子どもの楽しい読書のである児童図書館は欠くべからざるものであろう。」^{xvii}と次のように述べている。

日本で、特殊な家庭の子どもだけが、家庭で親や先生から教育された時代が、とっくに去ってしまって、国の規則で、どんな家の子どもでも、学校へいくようになったように、子どもが遊ぶ場所や、自由な読書のできる場所も、国家的・公共的な基盤で、とうにできていなければいけなかったのです。庭のない家の子どもは遊ぶな…本を買えない家の子どもは読むなというのでは、随分おかしい話です。遊んだり、本を読んだり、子どもの自然の活動の一部なのです。^{xviii}

1963年当時、全国にある児童図書館数（児童室のある公共図書館も含めて）は、262カ所で、全国の公共図書館数の700分の1であった。しかし、東京を例にとっても、1993年には、164箇所にとった家庭文庫数は、文庫経営者の高齢化や図書館の普及によって、次第に減少しており、2010年には56箇所に残っている（表4-1参照）^{xix}。家庭文庫が減少した昨今、身近に公共図書館の児童室がない場合やあったとしても図書館に行く習慣がない家庭では、幼稚園や保育所の園文庫の有無が幼児期の読書環境を左右すると考える。しかし、図4-1^{xx}が示すように、幼稚園、保育所に園文庫がある比率はまだ非常に低いのが現状である。

福音館書店が行った調査^{xxi}では、読み聞かせをしない大きな理由のひとつは、「子どもが読んでと言わないから」であった。もし、園文庫があれば、「保育園・幼稚園の園文庫から週一回借りる」という人が圧倒的に多かったのである。園文庫がある場合の利点として、次の4点をあげたい。

- ① 絵本のある環境においては、子どもは自分で本を選び、選んだ本は親や保育士・教諭に読んでもらったがる
- ② 親の意識も変化し、子育て支援にも有益である。
- ③ ある基準のもとに選んだ絵本のため、安心して子どもに読み聞かせられる。
- ④ 普段、図書館や書店に足を運ぶ時間がない忙しい保護者にとって、家で絵本を読むことが可能になる。

表4-1：地域別家庭文庫数の推移と順位

	2010年	1993年
東 京	56 ①	164 ①
埼 玉	39 ②	92 ⑥
大 阪	39 ②	116 ④
神奈川	37 ④	158 ②
千 葉	31 ⑤	85 ⑦
福 岡	29 ⑥	121 ③
兵 庫	26 ⑦	52 ⑬
北海道	21 ⑧	49 ⑭
滋 賀	20 ⑨	94 ⑤
京 都	18 ⑩	69 ⑧

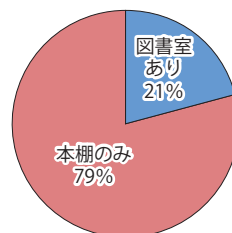


図4-1：保育所の絵本環境

しかし、園文庫設置には、設備や絵本購入の予算の問題や選書の方法、貸出や補修、管理体制の問題等々、課題は多い。しかし、幼児教育及び保育環境における質的向上への取組みの第一歩として、園文庫の設置は政策としても実行に移しやすい分野である。何故なら、家庭文庫の歴史は日本独自のものであり、施設だけが抱え込まずに実行できる歴史がある。幼児期の絵本の読書体験は、就学後の読書力や国語力ともつながっており、人生の行き方にも大きな影響を与えていくことであろう。

大宮勇雄は『保育の質を高める』^{xxii}の中で、二つの子ども観を紹介している。第一は、「未来の労働者としての子ども」であり、グローバル社会の中で市場労働主義に貢献できる労働力としての準備期＝幼児期という考え方である。第二は、「今、ここに生きる市民としての子ども」と捉え、大人の準備期間として重要視せず、幼児期それ自体が重要であると指摘している。OECDの報告書は前者を批判し、後者を支持している。しかし、これは二者択一の問題というより、今を生きる一市民の子どもが、未来により良い人生を生きるための幼児期を情緒的に安定のとれた一日一日を過ごし、自己発揮や自己実現の機会をもてることが重要で、そのことが可能な環境を準備することが幼児教育・保育環境の質的向上につながるものとする。園文庫の設置と活用は、こうした子ども観が求めるものを充足する環境のひとつとして、必ず機能すると信じている。

〈質問紙調査に使用した絵本〉

レオ・レオニ『あおくんといろちゃん』藤田圭雄 訳、至光社、1967

マージョリー・フラック『アンガスとあひる』瀬田貞二 訳、1974

バージニア・リー・バートン『いたずらきかんしゃちゅうちゅう』石井桃子 訳、福音館書店、1961

バーナディン・クック、レミイ・シャーリップ『いたずらこねこ』まさきるりこ 訳、福音館書店、1964

市村久子『おおきなおきなおいも』赤羽末吉 絵、福音館書店、1972

トルストイ『おおきなかぶ』佐藤忠良 絵、内田 莉沙子 再話、福音館書店、1962

マージョリー・フラック『おかあさんだいすき』石井桃子 訳、岩波書店、1954

マーガレット・ワイズ・ブラウン『おやすみなさいのほん』石井桃子 訳、1962

ラッセル・ホーバン『おやすみなさいフランス』ガース・ウィリアム 絵、松岡享子、福音館書店、1966

モーリス・センダック『かいじゅうたちのいるところ』神宮輝夫 訳、富山房、1975

岸田衿子『かばくん』中谷千代子 絵、福音館書店、1962

ロバート・マックロスキー『かもさんおとおり』わたなべしげお 訳、福音館書店、1965

加古里子 作『からすのパンやさん』偕成社、1973

阿川弘之 文『きかんしゃやえもん』岡部冬彦 絵、岩波書店、1959

10 瀬田貞二『きょうはなんのひ?』林明子 絵、福音館書店、1979

石井桃子『くいしんぼうのはなこさん』中谷千代子 絵、福音館書店、1965

ドン・フリーマン『くまのビーディくん』松岡享子 訳、福音館書店、1976

なががわりえこ『ぐりとぐら』おおむらゆりこ 絵、福音館書店、1963

西内みなみ『ぐるんぱのようちえん』堀内誠一 絵、福音館書店、1965

ルドウィッヒ・ベームエルマンズ 作・絵『げんきなマドレーヌ』瀬田貞二 訳、福音館書店、1972

マーシャ・ブラウン『三びきのやぎのがらがらどん』せたていじ 訳、福音館書店、1965

サムイル・マルシャーク『しづかなおはなし』ウラジミル・レーベデフ 絵、うちだりさこ 訳、1963
『スーホの白い馬』（モンゴル民話）大塚勇三、赤羽末吉 絵、福音館書店、1967
フィービ・ウォージントン・セルビ・ウォージントン『せきたんやのくまさん』いしいももこ 訳、1979
ジャン・ド・ブリュノフ『ぞうのババール』やがわすみこ 訳、評論社、1974
なかがわりえこ『そらいろのたね』おおむらゆりこ 絵、福音館書店、1964
加古里子『だるまちゃんとてんぐちゃん』福音館書店、1967
村山佳子『たろうのおでかけ』堀内誠一 絵、福音館書店、1963
バージニア・バートン『ちいさいおうち』石井桃子 訳、1965
ディック・ブルーナ『ちいさなうさこちゃん』いしいももこ 訳、福音館書店、1964
エドワード・アーディゾーニ『チムとゆうかんなせんちょうさん』せたていじ 訳、福音館書店、1963
パット・ハッチンス『ティッチ』いしいももこ 訳、1975
『てぶくろ』（ウクライナ民話）エウゲーニー・M・ラチョフ 絵、内田莉莎子 訳、福音館書店、1965
ジーン・ジオン『どろんこハリー』マーガレット・グレアム 絵、渡辺茂男 訳、福音館書店、1964
なかえよしを『ねずみくんのチョコッキ』ポプラ社、1974
筒井頼子『はじめてのおつかい』林明子 絵、福音館書店、1977
エリック・カール『はらぺこあおむし』もりひさし 訳、偕成社、1976
クロケット・ジョンソン『はろるとむらさきのくれよん』岸田衿子 訳、文化出版局、1972
ビアトリクス・ポター『ピーターラビットのおはなし』いしいももこ 訳、福音館書店、1971
H・A・レイ『ひとまねこざる』光吉夏弥 訳、岩波書店、1954
馬場のぼる『ぶたたぬききつねねこ』こぐま社、1979
フランソワーズ『まりーちゃんとひつじ』与田準一 訳、岩波書店、1956
デュボア『ものぐさトミー』岩波書店、1977
マリーホール・エッツ『もりのなか』福音館書店、1963
キーツ『ゆきのひ』きじまはじめ 訳、偕成社、1969
チャーリップ『よかったね ネットくん』やぎたよしこ 訳、偕成社、1969
マレーク『ラチとらいおん』とくながやすもと 訳、福音館書店、1965
ペチシカ『りんごのき』ズマトリコバー 絵、うちだりさこ 訳、福音館書店、1972
スタイグ『ロバのシルベスターとまほうのこいし』せたていじ 訳、評論社、1975
マリーホール・エッツ『わたしとあそんで』福音館書店、1968
にしまきかやこ『わたしのワンピース』こぐま社、1969

注

- i OECD. “Starting Strong : Early Childhood Education and Care” 2001
- ii OECD. “Starting Strong : Early Childhood Education and Care” 2006
OECD就学前教育・保育ハイレベル円卓会議 平成24年 1月24日 ノルウェーオスロ
共催国：ノルウェー 教育研究省・経済協力ハイ発機構（OECD）
出席国34カ国 198名が参加
日本からは、山中伸一（文部科学省審議官）、秋田喜代美（東京大学教授）、門田理世（西南学院大学教授）が参加した。
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/_icsFiles/afieldfile/2012/06/19/1322286_9.pdf

- iii 平成26年度全国保育士養成セミナー・全国保育士養成協議会第53回研究大会が9月17日から同月19日まで福岡市で開催され、「保育における質的向上」をテーマとした講演会や分科会が行われた。
- iv OECD（2006）は、保育の質を「方向性の質」「構造の質」「過程の質」「操作性の質」「成果としての質」の5点で捉える観点を提出している。
Litjens, I. 2010 Literature Overview 'Encouraging quality in ECEC' paper presented at the 7th OECD ECEC meeting, 2010
- v 日高敏隆『人間はどこまで動物か』新潮社、2006
- vi ノーベル経済学賞（2000年）の受賞者、教授
- vii 人的資本には、認知能力（Cognitive skills）と非認知能力（Non cognitive skills）があるが、ヘックマンは、IQやアチーブメント・テストに代表される認知能力に対して、非認知能力に注目した。非認知能力とは、意欲、自制心、粘り強さ、信頼性、首尾一貫性といった生きる上での人間性と関連しており、ヘックマンは、非認知能力の形成は、労働市場に影響を与えることを明らかにした。
Heckman, J., Jora, S., Serigo, U. 2006 "The effect of cognitive and noncognitive abilities on labour market outcomes and social behaviors" Journal of Labour Economics, 23 (3), p.411-482
- viii 秋田喜代美・佐川早季子「2011保育の質に関する縦断研究の展望」東京大学大学院教育学研究科紀要51、p.217-234
- ix Starting Strong III（2012年1月）
- x 『幼稚園教育要領』〈年版〉の第1章 総則には、「幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、」「幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」とある。『保育所保育指針』〈年版〉、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』〈平成26年版〉にも同様の記述がある。
- xi 東販の「ミリオンぶっく2011」1950年後半から70年代に日本で出版された絵本
- xii 『保育所保育指針』第1章 総則 2. 保育所の役割（2）に「保育所は、その目的を達成するために、保育に関する専門性を有する職員が、家庭との連携を下に、子どもの状況や発達過程を踏まえ、保育所における環境を通して、養護と教育を一体的に行うことを特性としている。」と定めている。
- xiii 原昌・浜野卓也『新版児童文学概論』樹書房、1988、p.15
- xiv 瀬田貞二『幼い子の文学』中公新書、1980
- xv 俵万智『りんごの涙』文芸春秋社、1992
- xvi 石井桃子『子どもの図書室』岩波書店、1965
- xvii 前掲書p.184
- xviii 前掲書p.186
- xix 汐崎順子「日本における文庫活動の現状質問紙調査の結果から」
- xx 2014年6月に行った実習終了した学生に浅木が行った質問紙調査による。
- xxi 「特集1 あってよかった！園文庫」『母の友1 2014年』福音館書店、2014、1
- xxii 大宮勇雄『保育の質を高める』ひとなる書房、2006

表3－1：学生対象にした絵本読書体験の質問紙調査結果

	書 名	出版年	読んでいる	わからない	読んでいない
1	あおくとときいろちゃん	1967	60	83	77
2	アンガスとあひる	1974	18	108	110
3	いたずらきかんしゃちゅうちゅう	1961	16	103	105
4	いたずらこねこ	1964	35	91	96
5	おおきなおおきなおいも	1972	55	84	71
6	おおきなかぶ	1962	211	7	2
7	おかあさんだいすき	1954	54	97	75
8	おやすみなさいのほん	1962	26	101	93
9	おやすみなさいフランス	1966	19	75	109
10	かいじゅうたちのいるところ	1975	130	31	50
11	かばくん	1962	115	38	58
12	かもさんおとおり	1965	3	102	113
13	からすのパンやさん	1973	117	51	57
14	きかんしゃやえもん	1959	13	100	106
15	きょうはなんのひ？	1979	41	84	86
16	くいしんぼうのはなこさん	1965	12	95	114
17	くまのビーディーくん	1976	13	94	110
18	ぐりとぐら	1963	210	6	2
19	ぐるんぱのようちえん	1965	139	34	85
20	げんきなマドレーヌ	1972	35	107	80
21	三びきのやぎのがらがらどん	1965	163	28	32
22	しずかなおはなし	1963	13	92	112
23	スーホの白い馬	1967	127	34	63
24	せきたんやのくまさん	1979	16	105	60
25	ぞうのババール	1974	57	89	45
26	そらいろのたね	1964	51	53	81
27	だるまちゃんとてんぐちゃん	1967	123	31	70
28	たろうのおでかけ	1963	16	91	112
29	ちいさいおうち	1965	49	79	91
30	ちいさなうさこちゃん	1964	75	72	72
31	チムとゆうかなせんちょうさん	1963	4	102	112
32	ティッチ	1975	19	91	108
33	てぶくろ	1965	121	35	62
34	どろんこハリー	1964	103	46	71
35	ねずみくんのチョコッキ	1974	170	17	33
36	はじめてのおつかい	1977	160	29	42
37	はらぺこあおむし	1976	205	7	10
38	はろるとむらさきのくれよん	1972	15	106	103
39	ピーターラビットのおはなし	1971	145	36	43
40	ひとまねこざる	1954	36	84	98
41	ぶたたぬききつねねこ	1979	47	82	92
42	まりーちゃんとひつじ	1956	10	104	107
43	ものぐさトミー	1977	4	105	114
44	もりのなか	1963	14	105	98
45	ゆきのひ	1969	31	80	109
46	よかったね ネットくん	1969	9	94	115
47	ラチとらいおん	1965	15	94	110
48	りんごのき	1972	14	90	115
49	ロバのシルベスターとまほうのこいし	1975	6	105	109
50	わたしとあそんで	1968	9	94	116
51	わたしのワンピース	1969	137	33	50

表3－2：現場の保育士を対象にした絵本読書体験の質問紙調査結果

	書 名	出版年	読んでいる	わからない	読んでいない
1	あおくとときいろちゃん	1967	97	58	51
2	アンガスとあひる	1974	16	100	87
3	いたずらきかんしゃちゅうちゅう	1961	67	67	90
4	いたずらこねこ	1964	50	80	74
5	おおきなおおきなおいも	1972	86	64	52
6	おおきなかぶ	1962	201	0	5
7	おかあさんだいすき	1954	77	77	52
8	おやすみなさいのほん	1962	61	89	57
9	おやすみなさいフランス	1966	38	82	95
10	かいじゅうたちのいるところ	1975	127	28	50
11	かばくん	1962	153	38	43
12	かもさんおとおり	1965	26	94	84
13	からすのパンやさん	1973	151	12	42
14	きかんしゃやえもん	1959	81	51	69
15	きょうはなんのひ？	1979	59	80	64
16	くいしんぼうのはなこさん	1965	40	86	77
17	くまのビーディーくん	1976	57	102	89
18	ぐりとぐら	1963	194	2	10
19	ぐるんぱのようちえん	1965	134	1	52
20	げんきなマドレーヌ	1972	59	73	72
21	三びきのやぎのがらがらどん	1965	185	2	19
22	しずかなおはなし	1963	42	97	66
23	スーホの白い馬	1967	114	28	66
24	せきたんやのくまさん	1979	10	106	88
25	ぞうのババール	1974	103	48	57
26	そらいろのたね	1964	143	34	30
27	だるまちゃんとてんぐちゃん	1967	152	15	40
28	たろうのおでかけ	1963	87	80	65
29	ちいさいおうち	1965	98	46	61
30	ちいさなうさこちゃん	1964	82	62	62
31	チムとゆうかなせんちょうさん	1963	9	105	91
32	ティッチ	1975	30	96	71
33	てぶくろ	1965	188	4	13
34	どろんこハリー	1964	135	26	44
35	ねずみくんのチョコッキ	1974	178	8	21
36	はじめてのおつかい	1977	148	19	37
37	はらぺこあおむし	1976	202	1	1
38	はろるとむらさきのくれよん	1972	24	95	87
39	ピーターラビットのおはなし	1971	121	21	63
40	ひとまねこざる	1954	101	72	53
41	ぶたたぬききつねねこ	1979	22	86	69
42	まりーちゃんとひつじ	1956	29	92	86
43	ものぐさトミー	1977	17	92	99
44	もりのなか	1963	55	75	76
45	ゆきのひ	1969	85	58	81
46	よかったね ネットくん	1969	25	90	89
47	ラチとらいおん	1965	38	76	87
48	りんごのき	1972	42	99	59
49	ロバのシルベスターとまほうのこいし	1975	13	107	86
50	わたしとあそんで	1968	39	92	72
51	わたしのワンピース	1969	150	22	31